令和2年度　学校だより

双葉のいのち

http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/baba/

令和３年１月２９日
横浜市立馬場小学校
校　長　町田　大樹

２月号

人とつながり育つ

副校長　　宇原　豊

正門前の毎朝の風景…にこにこ防犯隊の方々に加えて、一際きびきびとした動きで横断歩道の交通整理をされているのは、地域にお住いの稲留末治さんです。その稲留さんから、「しばらく横断歩道に立つのを控えさせてください。」という連絡がありました。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が出て、感染を心配されてとのこと、丁寧な電話の口調から稲留さんのお人柄が伝わってきて、改めて感謝の思いを深くしました。

本校の子どもたちは、様々な人に見守られ、教わり、支えられています。今年度は、感染症対策のため制約もありましたが、それでも子どもたちのために多くの方が教育活動に関わってくださいました。

２年生の生活科では、子どもたちが町を探検して抱いた疑問について、たくさんの方から答えをいただきました。公園や緑道を管理する行政の方々、町内会長の佐藤徹弘さん、商店会会長の塩原秀雄さん、地域をよく知る澤野六郎さん、にこにこ隊の皆さん、そして稲留さん。お忙しい中、子どもたちに直接教えるために、教室まで足を運んでくださった方もいます。３年生の畑作りでは、給食で野菜を納入していただいている地元農家の大立泰裕さんが、これまで使っていなかった花壇を本格的な畑にしてくださいました。先日、周囲に霜が降りた時も、その畑だけはふんわり柔らかな土のままで、本当に驚きました。６年生のあるクラスでは、総合的な学習の時間に地域の「椎の実パン」のご協力をいただき、馬場ならではのオリジナルのパン作りに挑戦しています。感染防止のため教室で食べることができないにもかかわらず、子どもたちが繰り返しアイデアあふれるパンを提案し続けられるのは、子どもたちの思いに応えてパンを試作し、販売まで考えてくださる「椎の実パン」の皆さんの温かい応援があってこそです。

新型コロナウイルス感染症は益々拡大している感があり、人と人とがつながること自体が難しくなってきている昨年来の状況です。しかし、むしろこんな時だからこそ、人から学び人の思いに触れる活動を学校では大切にしていきたいと思います。今回の学校だよりで紹介している活動の中でも、マスクをして、距離を取って、時にはビデオレターを使って…これからは、オンラインでの交流も可能になってくるでしょう。直接、接するのが難しくても、工夫次第でつながる手立ては、きっとあります。可能な活動を模索しながら、子どもたちには、学校ならでは、馬場ならではの人との出会いをたくさん経験させたいものです。

稲留さんが正門に立たなくなった翌朝、お世話になった２年生の子どもたちは、登校してすぐに心配そうな顔で担任にこう問いかけたそうです。「先生、稲留さんがいなかったよ。稲留さん、病気になっていないかな？」…人に触れることは、何より子どもたちの心を育てます。一日も早く、何の気兼ねも心配もなく子どもたちが稲留さんと、そして様々な人と触れ合える日が来ることを願います。

世界中の人々が１日も早いコロナの終息を願って戦っています。皆さんも一人一人が規則を守って頑張りましょう。私は元気です。皆さんと早く会って、元気なパワーを受けたいです。

～稲留さんからのメッセージ

学校のようす（馬場小学校 web ページ）
https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/baba/index.cfm/1,0,62,html